

# ふるさとの川の現状について

## Present Conditions of "Furusato (Hometown)" Rivers

企画調査部 副参事 加藤真雄

A questionnaire survey was done concerning progress, maintenance, and management of projects concerning the rivers included in the nationwide project for improvement of rivers in "furusato" areas, and concerning the present conditions of these projects. A summary of the survey results is presented here.

**Key words:** "Furusato (hometown) river" improvement project, questionnaire

### 1. はじめに

「ふるさとの川整備事業」は昭和 62 年度よりまちづくりと一体となった良好な水辺空間の形成を目的として、当初は「ふるさとの川モデル事業」として始まり、その後「せせらぎふれあいモデル事業」、「都市清流復活総合モデル事業」などの他のモデル事業を統合し、平成 8 年度より「ふるさとの川整備事業」と名称を変更して直轄河川も対象にして再スタートし、現在までの約 10 年が経過する間に日本全国で指定 174 河川、認定 152 河川（平成 8 年度現在）を数えるに至っている。

そこで、ふるさとの川整備事業を実施している河川について、今後の整備計画の策定と事業の円滑な推進に資するために、平成 8 年 8 月に建設省河川局治水課、河川環境課及び各都道府県の協力を得てアンケート調査を実施したが、ここにアンケート調査結果の概要を示す。

### 2. 調査概要

#### (1) 調査対象河川

平成 7 年度までにふるさとの川整備事業認定済みの 148 河川

#### (2) 調査内容

アンケートは以下の項目について調査を実施した。

- ①基本事項
- ②事業の進捗状況
- ③計画の内容について
- ④設計・施工について
- ⑤維持管理について
- ⑥事業の推進、運営について
- ⑦利用・活用状況
- ⑧広報活動
- ⑨フォローアップ
- ⑩その他

### 3. 調査結果

#### (1) 事業の進捗状況

ふるさとの川として既成している河川（河川事業の進捗率が 100% に達している河川）は以下の 14 河川である。

- ・安春川(北海道札幌市、昭和 63 年度認定)
- ・魚無川(北海道美幌町、平成元年度認定)
- ・山鼻川(北海道札幌市、平成 2 年度認定)
- ・腰巻川(青森県弘前市、平成元年度認定)
- ・目黒川(東京都目黒区、平成 2 年度認定)

- ・川音川(神奈川県松田市、平成2年度認定)
- ・赤江川(富山県富山市、昭和63年度認定)
- ・伏見川・高橋川(石川県金沢市・野々市町、平成2年度認定)
- ・瀬戸川(静岡県焼津市、平成元年度認定)
- ・生田川(兵庫県神戸市、昭和63年度認定)
- ・有田川(和歌山県有田市、平成2年度認定)
- ・光井川(山口県光市、平成2年度認定)
- ・真緒川(山口県宇部市、平成5年度認定)
- ・庄手川(宮崎県日向市、平成4年度認定)

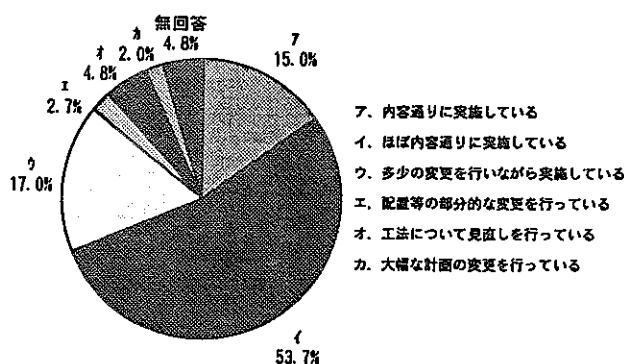
## (2) 計画の内容等について

当初の計画通りに進めているところが非常に多いが、変更を行なながら実施しているところもある。変更を行なっている理由の多くは多自然型川づくりの視点を加えて見直しているところが多い。

これは、ふるさとの川モデル事業として創設された当初は親水という面に重点を置いて計画を策定する所が多く、その後に多自然型川づくりという概念が定着し始めて、計画の見直しを行なった所が多いからと思われる。

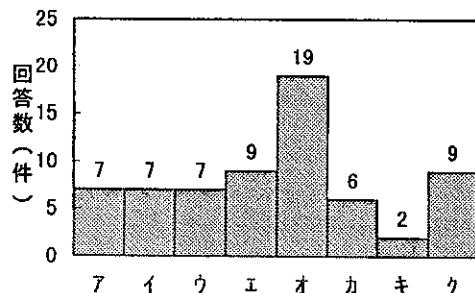
### Q. 整備計画の内容にもとづいて事業が実施されていますか。

n=146



### Q. 整備計画を見直すことになった理由は何ですか。(複数回答)

n=66, N=40



(※nは回答数、Nは複数回答の場合の回答母数)

また、計画に対する今後の考え方や意向については、計画内容に多自然型川づくりの概念を取り入れるだけでなく、計画を変更する際に地元住民や学識者等の意見を取り入れて協議会を組織していきたいという意向を持っている。

### Q. 計画の内容について今後の考え方や意向をお聞かせください。(記述式)

#### ●多自然型川づくりについて

- ・親水面に重点を置いた整備計画に自然環境及び維持管理への配慮等を考慮した視点を付け加えた計画としていきたい。
- ・多自然型川づくりに、より一層力を入れたい
- ・多自然型川づくりを考慮した整備計画の修正を検討中

など

#### ●行政以外からの意見の導入について

- ・整備計画に基づき、詳細について地元住民代表と協議会を開き事業を実施している。
- ・行政サイドの考え方で地元または一般市民の意見を取り入れ、内容の充実を図る。

- 今後行う予定の河川懇談会での意見、要望等を十分検討していきたい。
- 随時、各分野の学識者の方々から助言を受けながら、事業を進めていきたい。
- 今までの多自然型川づくりには、行政側の自己満足的な施設もあるように思う。今後の川づくりの構想においては、地域住民に喜んでもらえるものをふんだんに取り入れていきたいと考えている。

など

#### ●その他

- 維持管理のしやすさを考慮した施設計画としたい。
- 親水性景観を改善しても、水質が劣悪であり人々が憩える状況にならないため、今後は浄化についても積極的に取り組む予定である。

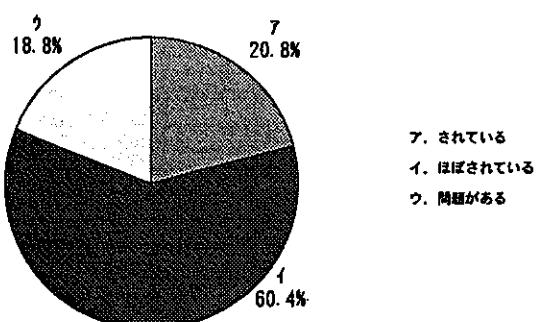
など

#### (3) 維持管理について

維持管理については、供用を開始している河川の8割以上がほぼ意図したとおりに管理されている。また、地元住民の管理への参加は清掃作業等を依頼しているところが多く、地元団体と一体となり、イベント風の一斉清掃を実施するところが多い。今後の意向でも清掃や草刈り程度の日常的な管理業務を地元が中心となった団体に依頼していくというところが多い。

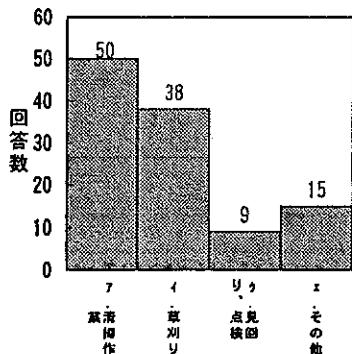
**Q. 供用箇所は整備計画で意図した通りに空間管理がなされていますか。**

n=95



**Q. 維持管理作業における地元住民の協力の状況についてお答えください。  
(複数回答)**

n=112, N=76



**Q. 維持管理に関して今後の構想や意向等があればお答えください。(記述式)**

- 隣接の桜づつみ事業と一体となった住民参加を予定（平常時維持）
- 河道整備箇所については、高水敷をレキ質土に置き換えて、雑草が生えにくくなるようにしたい。
- 地元愛護団体との連携が図れるような組織作りが必要と思われる。
- 地元住民に維持管理作業についての協力を依頼する。
- 親水施設については、地域住民が利用しやすくして使用頻度を高め、自分たちの庭の一部であるようにして、維持管理についても積極的に参加してもらうようにしたい。
- 維持管理の費用がかからない整備の検討
- 地元の住民団体に全面委託したいと考えている。

など

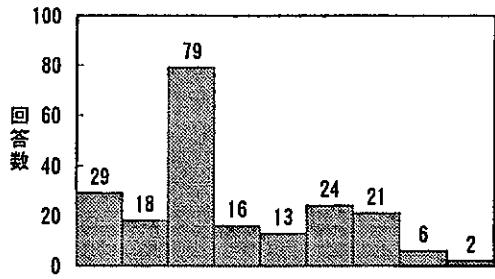
#### (4) 事業の推進・運営について

事業の推進・運営は、現状では行政レベルで調整を計っているところが多いが、今後の意向で地元との連携を重視した協議会を設置しようというところが多い。また、協議会の役割は行政間の調整や住民への理解促進を中心に設置しているところが多い。構成としては、河川管

理者、市町村担当者、地元住民を中心にして、学識者を加えているところも多い。

Q. 事業の円滑な推進や運営について講じている事柄についてお答えください。  
(複数回答)

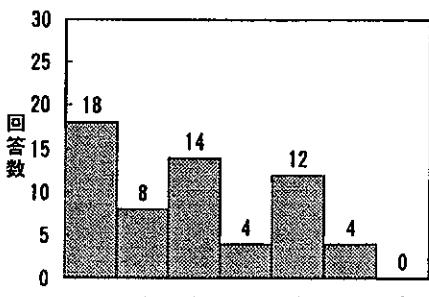
n=208, N=136



ア. 事業の推進や運営に関する協議会を設置  
オ. 検討委員会での地元住民代表に適宜相談  
イ. 行政間での連絡会議を実施  
カ. 地元一般住民との協議を実施  
ウ. 行政レベルでの調整を適宜実施  
キ. 河川行政サイドのみで実施  
エ. 他の事業の導入  
ク. その他  
ケ. その他

Q. 協議会ではどのような活動をしていま  
すか。(複数回答)

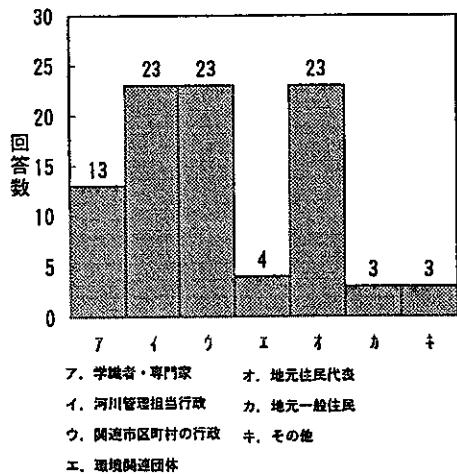
n=60, N=29



ア. 事業推進のための行政間の調整  
イ. 事業の進捗状況のチェック  
ウ. 事業に対する住民の理解促進  
エ. 問題が生じた場合の対処  
オ. 設計デザインの検討  
カ. 植栽管理の調整  
キ. その他

Q. 協議会のメンバーの構成についてお答  
えください。(複数回答)

n=92, N=29



Q. 事業の円滑な推進や運営に際して今後  
の考え方や意向等があればお答えくだ  
さい。(記述式)

- 委員会方式による行政間の調整や、地元要望の把握が必要である。
- 事業内容が一般住民にもわかるように、マスメディア等を利用して広くPRする。
- 実施計画段階で、市と住民代表との協議を行っており、地元の同意を得て事業を進めている。今後、自然環境や景観に優れた箇所について事業を実施する場合学識者等のアドバイスも必要と考えている。
- 現時点においては、スポット的なふるさとの川の整備計画を議論するのではなく、これらを含めた河川のあるべき姿、人々の親しめる川を基軸としたまちづくり等の広い範囲の論議を基調にして、その中の川の位置づけを明確にした上で、その事業を推進していく。これらの議論の中心部隊は、もちろん、広く住民に門戸を開いた住民参加の川づくりを基本姿勢とすることはいうまでもない。
- 現在以上に地元（市、地権者、住民代表）との協議を密に行う。

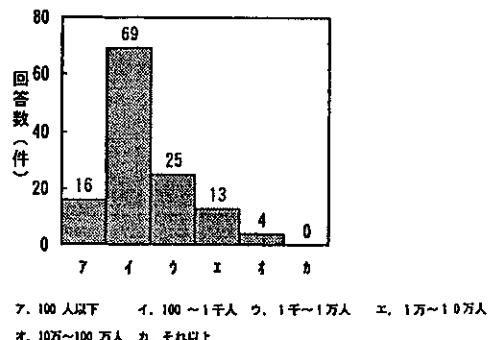
### (5) 利用状況、広報に関して

地元団体を主体として様々な種類のイベントを実施しており、規模は100～1,000人程度のものが最も多くなっている。

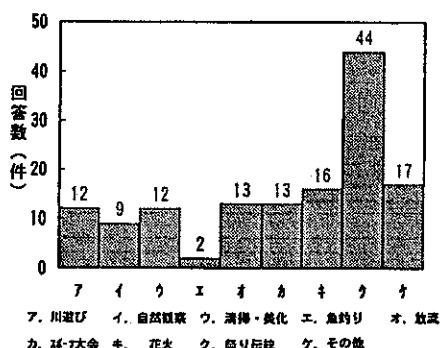
また、パンフレット等の広報活動を半分以上の河川で実施しており、事業理解に対する効果が大きい。

**Q. イベントの内容、参加者数、等について選択してお答えください。(複数回答)**

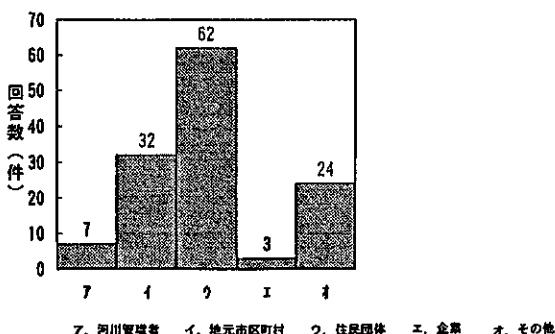
### ●イベントの参加者数(n=127, N=62)



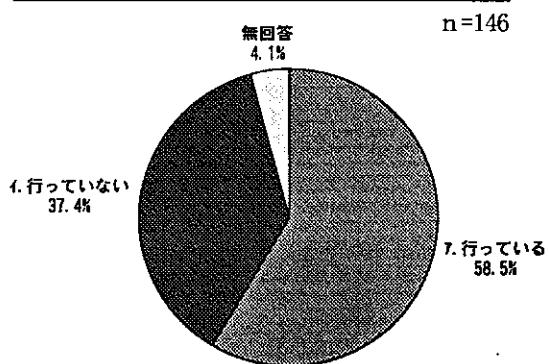
### ●イベントの種類(n=138, N=62)



### ●イベントの主催者(n=128, N=60)

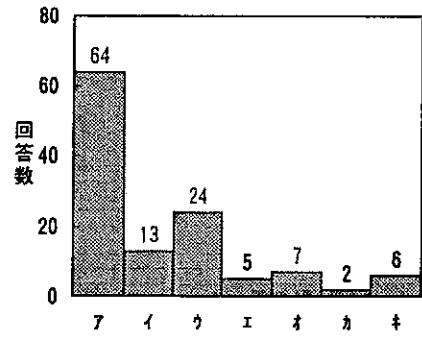


**Q. ふるさとの川整備に対して広報を行っていますか。**



**Q. 広報活動の内容についてお答えください。(複数回答)**

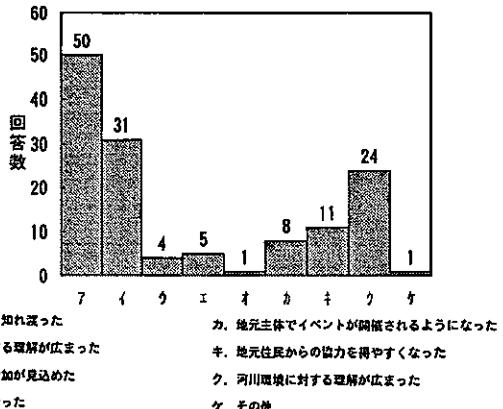
n=121, N=86



ア. パンフレット、ポスター等の作成・配付  
イ. 新聞への掲載  
ウ. 広報紙への掲載  
エ. TV、ラジオの活用  
オ. イベントの開催  
カ. 説明会の開催  
キ. その他

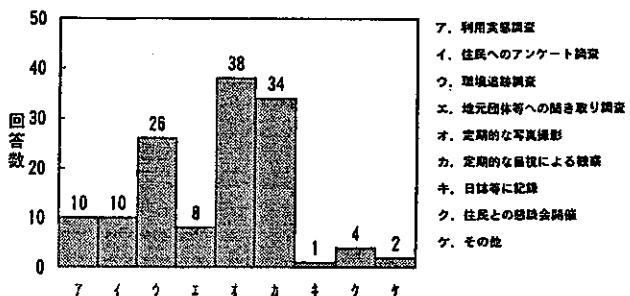
Q. 広報活動の効果についてお答えください。(複数回答)

n=135, N=80



Q. 今後、フォローアップを行う予定があればお答えください。(複数回答)

n=133, N=66



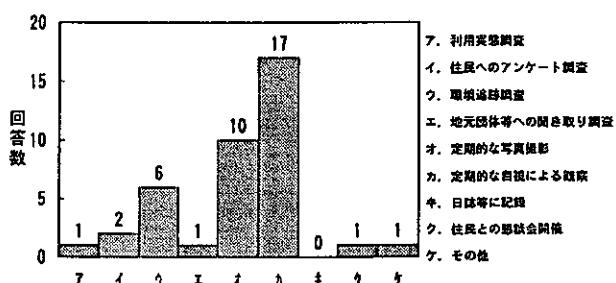
#### (6) フォローアップについて

フォローアップを実施しているところの多くは定期的な写真撮影や目視観測などの手軽に実施可能なものが多く、今後の予定でも同様になっている。

また、環境を重視して調査を実施しようとする所が多い。

Q. どのようなフォローアップをしていますか。(複数回答)

n=39, N=24



#### (7) その他

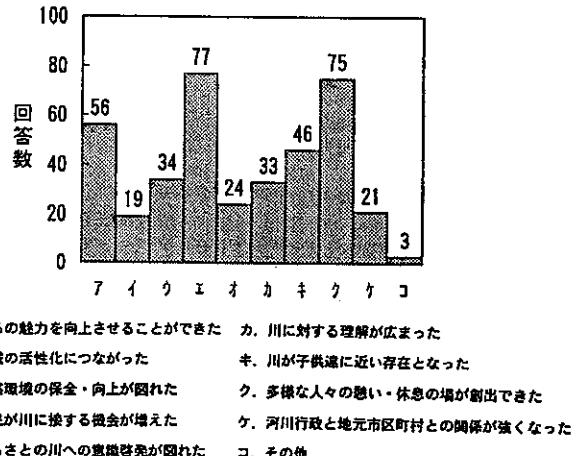
また、ふるさとの川整備事業を実施した上で様々な効果が報告されている。

その中でも、川に接する機会が増えたり、水辺に憩いの場が創出できたなど、良好な親水空間としての効果が多い。

更に、本事業の目的の一つであるまちづくりとの一体性についても、まちの魅力を向上させることができたなどが多く報告されている。

Q. ふるさとの川整備を実施してよかったですと思われる点があればお答えください。(複数回答)

n=391, N=120



#### 4. おわりに

ふるさとの川整備事業が始まり約10年が経過し、事業開始当初は親水、景観面に重点を置いた川づくりが行われてきたが、現在では自然環境、生態系保全に重点を置くようになってくるなど、地元住民のニーズも変化してきている。そこで、ふるさとの川整備事業に対しても、時代の変化に対応した計画づくりを行うために、今後ともこのような事業に関連する情報の収集を行い、積極的な情報公開・提供に努め、更に今後の計画づくりに反映し、これからのかまちづくりと一体となった良好な水辺空間の形成に寄与していきたいと思う。